

保育行為の判断の根拠についての一考察

中島 寿子・大森 洋子*

A Study on Rationale of Early Childhood Education

NAKASHIMA Hisako, OHMORI Yoko*

(Received January 7, 2014)

キーワード：保育者の専門性、保育行為の判断の根拠、語り

はじめに

『幼稚園教育要領解説』（2008）¹⁾において、保育者の専門性は「幼児一人一人の行動と内面を理解し、心の動きに沿って保育を展開することによって心身の発達を促すよう援助することにある」と記されている。そして、「幼児の活動を教師自らのかわり方との関係で振り返ること」「幼児と共に行動しながら考え、さらに、幼児が帰った後に一日の生活や行動を振り返る」ことが「翌日からの指導の視点を明確にし、さらに充実した教育活動を展開することにつながり、この営みを「日々繰り返すことにより、幼稚園教育に対する専門性を高め、自らの能力を向上させていくことができる」と記されている。

しかし、このような保育者の専門性が理解されてきたとは言いがたい。その理由について大場（2007）は次のように述べている²⁾。

「保育実践の専門性が浅いのではなく、その専門性の意味づけと実践の知の蓄積という課題の自覚化に問題があったと考えられる。」「保育実践の知について、理論的な考察を深める取り組みを始めるべきであろう。」

戸田（1992）は「保育学とは、子どもを『保育』しようと意図する者が、何をどうすべきかを選択し、決定する、その判断の根拠を検討する学問」³⁾であると定義しているが、経験豊かな保育者でも自身の保育実践における保育行為の判断の根拠を他者にわかりやすく言葉にするのは難しいことが多い。このことが、「専門性の意味づけ」と「実践の知の蓄積」を難しくしてきた要因の一つになっている。

その一方で、自覚的であるかは別として、保育者は日常的な語りの中で保育行為の判断の根拠に触れていることが多い。吉村（2007）⁴⁾はこの保育者の語りに着目し、「文字化できるだけの整理された状態に至るまでの思い巡らしから省察プロセスをとらえ」といった。その結果、以下のことを明らかにした。

- ・保育者の子ども理解および保育理解は生活の文脈をたどる仕方でなされる。
- ・保育者が自分のことばで保育を語ることは、保育の文脈を自身の経験という視点で探ることであり、その確認・納得につながる。
- ・保育者が語りにおいて見出す文脈には、保育行為の判断の根拠が埋まりこんでいるため、保育者は文脈を探り語ることで根拠を意識化する経験ができる。
- ・生活の文脈を丁寧に語る保育者の語りを聴くことで、聴き手にも、保育者の形成する文脈に添うかたちで子ども理解、保育理解がもたらされる。

以上のことをふまえ、本稿では保育者の専門性について考えるために、経験豊かな保育者の語りを取り上げる。そして、その保育者が自身の保育実践についてどのように語り、そこにはどのような保育行為の判断の根拠が埋め込まれているのかを分析する。その際には、保育者の専門性を高めるために『幼稚園教育要領解説』（2008）で重視されている「幼児の活動を教師自らのかわり方との関係で振り返ること」「幼児と共に活動しながら考え」「幼児が帰った後に一日の生活や行動を振り返る」とことと「翌日からの指導の視点を明確にし、さらに充実した教育活動を展開すること」とのつながりという視点からも分析する。

*山口大学教育学部附属幼稚園

1. 研究の目的

本稿では、経験豊かな保育者が自身の保育実践についてどのように語り、そこにはどのような保育行為の判断の根拠が埋め込まれているのかを分析することを通して、保育者の専門性について考察することを研究の目的とする。

2. 研究の方法

2-1 保育者

保育者はA幼稚園の大森洋子教諭である（以下Yとする）。その理由は以下の通りである。

- ・ A幼稚園は、一人一人の子どもが自分の好きな遊びを見つけて取り組むことを大切にする保育を展開しており、『幼稚園教育要領解説』（2008）にある「幼児一人一人の行動と内面を理解し、心の動きに沿って保育を展開することによって心身の発達を促すよう援助する」保育者の専門性がより求められる。
- ・ Yは保育経験が25年以上あり、多くの実践研究にも取り組んできてきた。そのため、自身の保育行為の判断の根拠を語る力をそなえていると考えられる。

2-2 逐語録の作成

20XX年度にYが担任する4歳児クラス（男児13名女児9名計22名。そら組とする）において、中島（以下Nとする）が保育補助的な働きをしながら参加観察をした。子どもの降園後、保育室内においてYがNにその日の保育実践について自由に語った。参加観察をもとにNが質問したことについてYが語ることもあった。その内容はICレコーダーで録音し、後に逐語録として文字化した。

2-3 分析方法

本稿では4月26日と6月7日の逐語録を取り上げる。Yが4月26日には「そろそろしたい」と思っていたことができたと言ったが、6月7日には「いつか機会をとらえて」と思っていたことが「中途半端」になり、「反省しきり」だと語ったためである。この両日について、Yが自身の保育実践についてどのように語り、そこにはどのような保育行為の判断の根拠が埋め込まれているのかを分析する。

6月7日には、一人一人の子どもが自分の好きな遊びを見つけて取り組むことを大切にする保育の中で、Yが子どもたちの姿をどのように把握しているのかについてもNが質問した。そこでのYの語りについても分析する。

3. 結果と考察

紙幅の都合から、Yの語りからの抜粋を表1、表2、表3にまとめた。子どもの名前はすべて仮名である。

3-1 4月26日の保育実践について

この日の保育実践についてのYの語りからの抜粋を表1にまとめた。

3-1-1 「今日あたりはもう進級の子でかわれるな」（表1①）

Yはこの時期、一人一人の子どもとかわりながら、その子どもについて理解すること、その子どもと自分との関係を築いていくことを大事にしたいと考えていた。そして、4月当初は特に新入児とのかかわりを中心にしてしたが、進級児とかわることを「そろそろしたいなっていう思い」をもっていたと言った。

3-1-2 「あ、これはチャンスだな」（表1②）

そのような思いをもっていたYは、進級児の中でも自分とのかかわりがあまりなく、新入児にも遠慮している様子であったハナ・リコが新入児たちが始めたプリキュアの踊りに興味を示してやって来たことに気づいた。Yは「あ、これはチャンスだな」と思い、「そこがスタート」だったと言った。そして、リコの「新しいプリキュアがいいよ」という言葉を聞き逃さず、「それ先生持ってるのよ」と話しかけ、新しいプリ

キュアの曲で踊ることを提案した。

Yはこの場面を振り返り、「『いーれーて』って言って入るものとは違う」が、「出会いのきっかけ」はやはり必要だと語った。子ども同士の関係づくりのための自身の保育行為の判断の根拠について、Yが再確認したことがわかる。そして、ハナ・リコについては、そのきっかけづくりがプリキュアの踊りを通してできたのではないかとYは語った。

3-1-3 「今日は遊べると思ったんでしょうねえ」(表1③)

Yはこの日、自分から何かを要求することはないが、「この人と遊んだという実感」をもてないでいたショウ(進級児)たちとの遊びについても語った。

Yはこの日、ショウが他の子どもたちと保育室を出て、アスレチック遊具の方へ行ったことを「見ていた」。そして、「いろんなことをしてるんだけど」「跳んでみたり跳ねてみたり渡ってみたりっていうことかな」と推測してアスレチック遊具の方へ自分も行ってみた。

すると、Yの推測に反し、ハルト(進級児)が「ジュースです」「飲んでください」と言ってYに葉っぱを渡してくれた。そのことで、Yはハルトがイメージをもって遊んでいることを理解した。また、「したいことがあったら『ん!ん!』って言って引っ張」ることが多いケン(新入児)が同様のイメージをもっていることも理解した。そこで、Yはハルトやケンから渡される「ジュース」を飲むという「ジュースやさん」の遊びを楽しんだ。すると、ショウもやって来て、「ドライブスルーになってるんだ」等、Yに話しかけてきた。このようなショウの姿から、Yは「今日は遊べると思った」のだろうと考えた。Yはこの場面を振り返り、「あ、こんなふうに言うんだなあとか思いながら、遊んでおりました」と語った。Yがショウたちの遊びを一緒に楽しみながら、彼らの言葉に耳を傾け、その思いを理解しようとしていたことがわかる。

3-1-4 「引越ししようー」(表1④)

そら組での園生活が始まったばかりのこの時期、子どもたちの姿を自分が把握しやすい場所で遊んでほしいという思いもあり、Yは子どもたちの行動範囲を保育室の裏側まで広げたいと考えていた。そして、「ジュースやさん」を楽しんでいたこと、二日前にケンがそこまで行った姿が「見えて」いたことから、同じようなイメージで遊ぶことができ、保育室の裏側まで足をのびた所にある「わくわくとりで」を紹介した。すると、ショウが「そこどこか行ってみたい」と言ったことから、Yは「引越し」を提案した。そして、その場にいたタクヤ(新入児)も誘って「わくわくとりで」に行き、「ジュースやさん」の遊びを続けた。

3-1-5 「この人がこんなふうに思ってたんだなーみたいなことを、わかったかなー」(表1⑤)

この遊びを振り返り、Yは「ショウ君がどういう人かもわかったなあって思ったり。ちょっとハルト君とも遊んだな」「この人がこんなふうに思ってたんだなーみたいなことを、わかったかな」と語った。

ショウたちのイメージを大切にしながら一緒に遊ぶことができた、彼らがどのような思いをもっているのかも少し理解できたという実感をYがもったことがわかる。

表1 Yの語りからの抜粋：4月26日の保育実践について

①「今日あたりはもう進級の子でかわれるな」	・「今日というよりは、今頃って感じなんだけど」「その子が、どんな子かっていうのがまだわからない人もいるの」「自分との関係をつくっていくっていうのが」「すごく大事な時なんです」「最初は新入からやっていったんだけど」「あ、ちょっともう今日あたりはもう進級の子でかわれるなっていうのを、自分は思っていました。」 ・「で、先生(N)もいらっしゃるのもあるから」「そろそろしたいなっていう思いは、もっていました。」
②「遠慮しているところが」「あ、これはチャンスだな」 :ハナ・リコ(進級児)	・「女の子(の進級児)はハナちゃんと」「リコちゃん。あの人たちともピーピー豆とったりして、ちょこちょこかわってはいれるけれども」「新しい子たち(新入児)の方には遠慮しているところがありました」「でも、(新入児が始めた)プリキュア(の踊り)のところで、ちょっと反応を示してやって来たので」「あ、これはチャンスだなと思ったんで。最初はそこからそこがスタートですね」 ・「来たけども、やっぱりちょっとひいたところ見てたんですね」「見てたけども、『曲が違うよ』って言うの。リコちゃんが、『新しいプリキュアがいいよ』と言ったので」「『それ先生持ってるのよ』って言って」「『ちょっと取りに行きましょ』って言って」 ・「出わせてあげる場所とか」「出会いのきっかけみたいなものは」「やっぱりよなあとあって、『いーれーて』って言って入るものとは違うなっていうのは思うんですけど。それが、プリキュアを通してできたかなっていうのは、思ってた。」

<p>③「この人と遊んだという実感を私自身がもっていないので」「いっぱいイメージもってるんだなー」「今日は遊べると思ったんでしょねえ」 :ハルト・ショウ（進級児） ケン（新入児）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ショウ君（進級児）も」「『なんかしてくれー』っとか『困ったー』とか言う訳ではないけども、自分はこの人と遊んだという実感を私自身がもっていないので。アスレチック（園庭の隅にある固定遊具）の方にいたので、そこに行きました」 ・「ハルト君もいました。で、ハルト君も進級の子なので」「ハルト君は、この辺（保育室内）でブロックをしたり」「恐竜（のおもちゃ）が好きだったり、友だちとってという部分はあんまりまだ見られなくて」「『外に行こうよー』とか『これしようよー』ってというような人です」 ・「ケン君（新入児）も、したいことがあったら『ん！ん！』って言って引っ張って」「そんな感じの人なんですけども」 ・「その辺の人たちが」「<u>一緒に出て行ったのは見てたから、その辺（途中にある池）でアメンボとったりしながら多分アスレチックの方に行ったんだらうとは思んですけど</u>」「<u>いろんなことをしてるんだけれども</u>」「<u>跳んでみたり跳ねてみたり渡ってみたりっていうことかなって思っ、行ってみたら</u>」 ・「ハルト君が『はい、ジュースです』って言って葉っぱをくれたんですね」「で、あ、イメージもってるんだと思って。ふーんって言ってジュースを飲んでたら、『上にあがって飲んでください』って言って」「ハルト君のジュースをもらって飲むっていうようなことをして」 ・「ケン君も『リンゴジュース、リンゴジュース』とか言ってくれて」「ケン君は何にも手にもたないけども、『はい』ってくれて」「それを飲んで、みたいなのをして」 ・「ショウ君が来て」「『上で飲んではいけないんだよ』って、『下で飲んでくれ』って言って」「『ドライブスルーになってるんだ』って言って」「なので、ああ、いっぱいイメージもってるんだなーって思いながら」「たたかいでエイ、ヤーとかぐらいいしかしたことがなかったの」「こんなふう言うんだーって思ったら、ショウ君が、自分が、今日は遊べると思ったんでしょねえ」「あ、こんなふう言うんだなあとか思いながら、遊んでおりました」
<p>④「そら組はこことここで遊んでほしいという思い」「引越ししようー」 :ハルト・ショウ（進級児） ケン・タクヤ（新入児）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「アスレチックそのものってのは、珍しかったり好きだったりするんだけど、ちょうど（保育室から見ると）死角になっていて」「そら組はこことこ（保育室周辺の園庭）で遊んでほしいという思いは」「もっているの」「<u>ケン君とヒロム君（新入児）がそこ（アスレチックからさらに保育室裏側まで行った所）にいるのが見えて</u>」「<u>自分たちであそこまで行ったなって思ったのがおとといたんだんですね</u>」 ・「それでケン君だったので」「『ここも楽しいんだけど、この上と下とあがるのが、向こうにもあるから行って見ないー』『わくわくとりで（保育室裏側にある固定遊具）って言うんだけどね』っていう話をして。そしたら、ショウ君が『そこどこか行ってみたい』って言って」「引越ししようーって言って、4人で、タクヤ君（新入児）も、そこにいたんですけど」 ・「ショウ君と、ケン君と、ハルト君と、タクヤ君」「ここでまた二階（わくわくとりの上）にあがったりおいたり」
<p>⑤「この人がこんなふうに思ってたんだーみたいなのを、わかったかなー」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「それぞれがこうしてって、ここで買ってとか、こう回ってとか、そんな、なんか好きなことを言ってるっていう、ことをしてけども」「ショウ君がどういふ人もわかったなあって思ったり。ちょっとハルト君とも遊んだなー」「この人がこんなふうに思ってたんだーみたいなのを、わかったかなー」
<p>⑥「来たなーと思って」 :コウタ（新入児）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「私が一瞬見失っていたので」「コウタ君（新入児）どうしたかな、ちょっと思いながらいってると」「（園長先生にわくわくとりで近くの）大きいブランコで押されてるコウタ君の姿が見えたので、あ、いたいたと思って。で」「園長先生がちょっとやめられた時に、こっち側でいたら、コウタ君がシューッとこっちに」 ・「で、おーいと私は手を振りながらこっちで遊んで」「ここに私はいるよっていうのをしながら」「そのとりの所に、コウタ君も」「来たんですね。だから、あー、来たなーと思って」「人のいる中にあんまり来ない人なので」「来たとしても、『あっちに行こう行こう』って言って、ブランコに行こうとかいう引っ張り方をするんですが、今日4人と私とだっで…引っ張らずに、来たなーと思って。まあ、それもとりの魅力かも知れません」
<p>⑦「何もしなくても遊んでいたような人に」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「もう新しい人（新入児）は慣れてきて、だんだん自分を出してきて、どうも好きなようにできるらしいって思ってきてる中で、何もしなくても遊んでいたような人に、ちょっと、どうかしらって思ってみた一日やっような気がします」
<p>⑧「遊べるかな」「あ、したいことが見つかった、この子」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「今の時期っていうのは、そこで」「どんなふうにしたとか全然私なんか聞、見えなくて」「場所とかを物を要求してるところを」「ハイって出してから」「遊べるかなって思ったら別のとこへ行くみたいな感じですね」 ・「なんか遊び込むとか」「遊びをどうこうではなくって。あ、したいことが見つかった、この子みたいなの」「この人のしたいができたって思っ、あ、この人これっていうのがあった。とりあえずここOKかな」「次こっち、みたいなの感じなので」「だから遊びが続かないのもよくはないのかも、知れないですけど」

3-1-6 「来たなーと思って」（表1⑥）

Yは「人のいる中にあんまり来ない人」であるコウタ（新入児）についても語った。Yはコウタが常にどこにいるか把握しようと気を配っていたが、その姿を「一瞬見失って」しまい、ショウたちと遊びながら探した時があった。そして、園長にブランコを押してもらっているコウタの姿を見つけ、「あ、いたいた」と思った。しかし、その後、園長がブランコを押すのを少しやめた間にコウタが自分の方へ向かっていることに気づいた。それで、「ここに私はいるよ」と伝えるために「おーい」と手を振ったとYは語った。自分はいつでも待ってるよと伝えたいというYの思いも窺えた。このYの思いが伝わったのか、コウタは「ジュースやさん」の遊びの中に入った。

Yはこの場面を振り返り、コウタは「人のいる中にあんまり来ない人」で、「来たとしても、『あっちに行こう行こう』って言って、ブランコに行こうとかいう引っ張り方をする」のに、「今日4人と私とだって…引っ張らずに、来たなー」と思ったと語った。この日のコウタの姿をYがうれしく思ったことがわかる。

3-1-7 「何もしなくても遊んでいたような人に」(表1⑦)

このような一日の保育実践を振り返り、Yは新入児が「だんだん自分を出してきて、どうも好きなようにできるらしいと思ってきてる」中で、「何もしなくても遊んでいたような人に、ちょっと、どうかしらって思ってみた一日」だったような気がすると語った。ショウのように自分から積極的にかかわることをしなくても遊んでいるように見える子どもが、本当に自分の好きな遊びを見つけられているのかも知りたいとYが思っていたことがわかる。

3-1-8 「遊べるかな」「あ、したいことが見つかった、この子」(表1⑧)

また、この時期の自身の保育については、子どもがどこでどんなふうに話した等は全然見えておらず、一人一人の子どもからの場や物への「要求」にこたえて、「遊べるかな」「あ、したいことが見つかった、この子」「この人のしたいができた」と思えば、「別のところへ行く」という感じだと語った。また、「だから遊びが続かないのもよくはないのかも、知れないですけど」と語っていることから、一人一人の遊びに自分ももっとかかわると遊びが続くのだが、今は難しいとYが考えていることも窺えた。

このようなYの語りから、Yは保育者として様々な思いをもっているが、自分の思いだけで一方的に判断して保育行為を選んではいけないことがわかる。Yは子どもの思いと自分の思いが合っているのかを保育行為の判断の根拠の一つにしていた。そして、子どもが自分の思いをもち、自分から動いたり言葉を発したりした瞬間を見逃さないように、聞き逃さないようにしており、「チャンス」や「きっかけ」を大切にしていた。

3-2 6月7日の保育実践について

この日の保育実践についてのYの語りからの抜粋を表2にまとめた。Yはこの日の保育実践を振り返る中で、「想定外」の出来事や子どもの姿(表2波線の下線部)もあった状況の中で、自身が判断して選んだ保育行為の結果が納得できないものになってしまったことについて繰り返し語った。

3-2-1 「自分も今日もそこだろうな」(表2①)

Yはこの日、「今週あたりでマナミ週間は終わり」と思っていたと語った。気持ちが不安定な状態が続いていたマナミ(進級児)が「先生とこれをする」と決めてきた遊びを一緒にする日々を続けていたのだが、マナミの気持ちも安定してきたと感じていたためであった。そして、この日もマナミが前日にずっと楽しんでいたプリキュアの遊びをすと言い出すだろうと予想し、「自分も今日もそこだろうな」と考えていた。

前日には水遊びを楽しむ池に行けなかったことから、Yは「明日は行こう」と子どもたちと約束していた。そのため、池にも行こうと考えていた。

3-2-2 「私がないのもなあ」「結構レストランもなんかいろんなことを言って」(表2②)

ところが、マナミが遅れて来ることがわかり、この日のYの予定が狂ってしまった。その上、女兒たちは登園してすぐにプリキュアの遊びを始める日々が続いていたにもかかわらず、この日はままごとコーナーでの遊びから始まった。

Yはこの状況の中で、マナミが登園した時に「私がないのもなあ」と思い、自分はすぐには保育室を「出られないなあ」と判断した。そして、子どもたちとままごとコーナーで「レストラン」をして過ごす中で、「こうやってやったらいいよ」「『いらっしやいませ』っていうふうに」等の子どもたちの言葉に耳を傾けながら、「レストラン」のイメージを形にすることを手伝っていった。

3-2-3 「今日いっぺんに来たって感じ」(表2③)

Yは「お財布とお金もいつか作ろうと思ってる、紙はずっと」「人数分用意しておいて」いた。そのため、「レストランに行くことになった」時をチャンスだととらえ、自分が作った財布を数人に渡し、他の子どもにも作り方を教えた。お金の作り方も教えると、たくさんのお金を作った子どももいた。

この場面を振り返り、Yは「いつも機会をとらえて教えてあげたいな」「広げていきたいなとか思っていることが今日いっぺんに来たって感じ」だったと語った。「こういう時だからこそ、こう作れるよって」とも語っており、本当は作り方を丁寧に伝えたかったというYの思いが窺えた。

3-2-4 「読み聞かせがあったってことに私も気がついて」「てことは」（表2④）

Yは前日に子どもたちと池に行く約束をした時点では、「昼から行こう」と言っていたのだが、この日から午後には保護者の読み聞かせがあることを子どもたちの降園後に思い出した。そのため、プリキュアの遊びをした上で「午前中になんとしても行かなくちゃ」と考えた。

Yはこのような自分の判断について振り返り、「なかなかちょっと、難しかったですね」と語った。

3-2-5 「なかなか行かない」「何人かずつは行くことは無理だなと思った」（表2⑤）

朝から保育室にいたYに、多くの子どもたちが池に行こうと誘いに来た。そのため、Yは補助教諭に頼んで「何人ずつか送って、自分的には（池に）送るつもり」だったのだが、補助教諭のことを知らない子どもも多く、一緒に行こうとしなかった。その上、「ぼつぼつと変なタイミングで」Yを誘いに来た。

このような状況の中で、「何人かずつは行くことは無理だなと思ったので」「二人でも先に行ってもいいかなと思ったけど、他の人たちもみんな行きたがってるからなっと思って、二人だけ行くよりはみんなで行った方がいいと思ったから」等、自分がどのような判断の根拠をもっていたのかをYは詳細に語った。その中で、お財布とお金作りを提案したのは、この状況を「整理」する意味もあったことをYは思い出した。

このように、Yは子どもたちの思いと保育者としての自分の思いをもとに、その場その場の状況の中で何を根拠に判断して保育行為を選んでいったのかを詳細に語った。この時期になると、4月よりも一人一人の子どもが自分の好きな遊びを見つけるようになり、自分の思いをYに伝えるようになる。Yも一人一人の子どもの思いをより理解できるようになる。そのため、判断の根拠となることもより多くなり、Yは余計に逡巡することになったと考えられる。

Yはその後、レストランの遊びが「一段落」と判断したところで子どもたちと片づけをし、午前中の

表2 Yの語りからの抜粋：6月7日の保育実践について

<p>①「自分も今日もそこだろうな」 ：マナミ（進級児）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「この間もマナミちゃん（進級児）だったと思いますけど」「もう随分いいので」「今週あたりでマナミ週間は終わりとか」「自分の中では思ってたんですけど、今日に限ってというか、今日ねえ、遅く来たんですよ」 ・「で、マナミちゃんは、プリキュアをしてとか」「虫をとるとか、先生とこれをするんだよって決めてきているのがあるので。それを、周りの子と一緒になんとなくつき合っていく感じをずっとしてたのが、あったので。もう今日も彼女はプリキュアとかをやるって言うんだろうなと」 ・「ペランダのところで」「お姫様とプリキュアがかわりばんこに」「（一方が）バタンで倒れて」「助けてーって言って（もう一方が助けに来るとい遊びを）」「ずーっと昨日やってたんですよ」 ・「今日もマナミちゃんはそこだろうなっとは思ってて」「まあ、私も自分も今日もそこだろうなっという。でも、天気だから」「ちょっと早い時間にやって池に行くといいなって自分では思ってた。池はO組さん（隣のクラス）が先に行くねって言ったので」「朝すぐにはまあ（池に子どもたちの気持ちを）向けないで…と思ってたんですよ」
<p>②「マナミちゃん来るのが遅かったの」 「私がいらないもなあ」 「結構レストランもなんかいるんなことを言って」 ：モエ（新入児）リコ（進級児）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「マナミちゃん来るのが遅かったの」「ちょっと、そこで狂ってしまいましたですね。なんかレストランになったなあと思って」 ・「マナミちゃん来る時に私がいらないもなあと思うから、出られないなあと思ってたので。なんとなくこころ辺（ままごとコーナー）でレストランしたりして過ごしたら、結構レストランもなんかいろいろのことを言って」「こうやったらいいよとか、モエちゃん（新入児）がいっぱい言うんですけど」「『いらっしやいませ』っていうふうにごう」 ・（モエ（新入児）・リコ（進級児）からカーテンが開いたようにしたいと言われ）「はあと思って。ビニールを取りに行行って」「こうした（カーテンが開いた）状態にして、両端をガムテープでとめて」

<p>③「いつも機会をとらえて教えてあげたいな」 「広げていきたいなとか思っていることが今日いっぺんに来たって感じ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「お財布とお金もいつか作ろうと思って、紙はずっと」「人数分用意しておいて」「いたんですけど。それで、あ、レストランに行くことになったから」「お金はどうしたんだっけな。誰かが作るって言ったのかな」「なんでこうなったか忘れちゃったけど」「『財布をじゃあ、あげましょ』って言って、こう、3人ぐらいには、もう自分が用意してた分をあげて。他の人には」「『こうやって折ったら作れるよ』って言って作って」 ・「もったいない紙入れをちょっと最近紹介したので」「それでやったらできるよって言いながら」「ビニールテープの輪っかを使って丸描いたら、お金ができるよって」「話をしながら、お金をさんざん作ってっていう感じで」 ・「だからなんかこう」「いつも機会をとらえて教えてあげたいな」「広げていきたいなとか思っていることが今日いっぺんに来たって感じ」「こういう時だからこそ、こう作れるよって」
<p>④「明日は行こうね」 「読み聞かせがあったってことに私も気がついて」 「てことは」 「難しかった」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「昨日、池に行けなかったの。明日は行こうねって言って」「昼から行こうって言って帰した後、あっ！今日は（保護者による午後の）読み聞かせがあったってことに私も気がついて」 ・「しかも（担当が）リコちゃんのお母さんなのに」「しかも初日なのに」「それで、そら組は知りませんって訳にはいかないとか思って」「今日昼から池に行こうってふうには、もうちょっと向けられないなあって。ちょっと。昨日子どもたちを帰した後思い直して」 ・「てことは、今日午前中になんとしても行かなくちゃと思って」「なかなかちょっと、難しかったですね」
<p>⑤「なかなか行かない」 「何人がずつは行くことは無理だなと思ったので」 「整理をした」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「H先生（3歳児クラス時の補助教諭）が入ってもらったから」「何人がずつ送って、自分的には（池に）送るつもりだったけど」「新しい子にとっては初めての先生」「でもあるので」「なかなか行かない」 ・「行かないのと。それがぼつぼつ、ぼつぼつと変なタイミングで（池に行きたいと）言ってくるから」「それを何人がずつは行くことは無理だなと思ったので。で、リコちゃんとハナちゃん（進級児）も、『よし、池に行こう』って言った時があったんだ、あ、思い出しました」 ・「で、まあ二人でも先にいっていいかなと思ったけど、他の人たちもみんな行きたがってるからなと思って、二人だけ行くよりはみんなでいった方がいいと思ったから、あの二人にお金を作ろうって誘ったんですね」「お金作って、レストラン行って」「レストランしてから、みんなで行こうよって、ちょっと、そういう感じで整理をしたんです」 ・「なので、レストランも、ちょっと一段落してからと思ったので。それで、さあ行こうって行きたかったけど、このまま行ったら大変だから」「しまってから行きましょって、しまつて行ったりしたら」「もう10時40分ぐらい。50分ぐらい。ほんとは片づけ11時なんですけどね。ちょっとね。」
<p>⑥「今日レストランなんだ」 「全然想定外」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「池とプリキュアとは絶対するっていうのは、もう、あの女の子たちの中にはあったの。なのにレストランをしていたので」「池が終わって、プリキュアしようって言うから、それはちょっと今できないから。で、お弁当終わって、できるかなあーとか言いながら、時間見たら（読み聞かせの時間になるので）なくて。じゃ、帰る時（降園前の時間）にしようね」「1時には帰ってねと言ったら、結構帰ってきましたね」 ・「なんで今日レストランなんだろう」「そうだ、寿司と野菜のためにモエちゃんが作って」「『ここはレストランよ』って言って」「今日レストランなんだ」「全然想定外みたい」 ・「女の子少ないので、なんとなくお互いを待ちあうような」「感じにはなってきた」「マナミちゃんがおらんから、まだできないみたいなのは思ったりはして」
<p>⑦「久しぶりにままごとコーナーから始まりやなあ」 ：シホ・レイ（新入児） リコ・ハナ（進級児）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日はシホちゃんとレイちゃん（新入児）は、ままごとだったんですよ」「ままごとコーナーから始まる時と、プリキュアの服から始まる時とがやっぱりあるんですけど」「久しぶりにままごとコーナーから始まりやなあ、今日はって思ってたんですよ」 ・「リコちゃんとかハナちゃん（進級児）は、それでもそこに行かないで外に行くこともあるし、プリキュアの服を着て出ることもあるっていうのもあるんですが」「そこにいたんですね」「今日はあそこでみんながいるな、テラス（プリキュアごっこをするペランダ）の方に行かないって」「思ってた、これ（ままごとコーナーにあった俵型のスチロール。Yが用意した物ではなかった）は何かって言うので、ごちそう作るみたいなき感じ、レストランにしようって言って、言い出したのか」
<p>⑧「反省しきりです」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「反省しきりですけど。お金の作り方も教えてあげられなかったし」「全体で言ったことっていうのは、そんなにたいして聞いている訳ではないっていうのは、あるんですけど。こっちの安心感みたいなため、みたいなのはあるんですけど」「聞いたことでわかる人もいますからねえ」
<p>⑨「欲張りな私のね、いけないところが全部出たと思って」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日はね、欲張りな私のね、いけないところが全部出たと思って」 ・「お金、なんかこう、いつかこうするといいなとか思いながら」「今がチャンスだしなーと思いつつ。思いながらやりながら。うーん、全部中途半端、みたいな感じ」

うちに池にも行った。いつもより保育室に戻る時間が遅くなってしまったが、「もう10時40分ぐらい。50分ぐらい。ほんとは片づけ11時なんですけどね。ちょっとね」と語っていた。この状況の中でも、子どもたちと池に行く約束を優先しようとしてYが判断したことが窺えた。

3-2-6 「今日レストランなんだ」「全然想定外」（表2⑥）

池に行った後、女兒はYの予想通りプリキュアの遊びをしたいと言い始めた。そのため、Yは「それはちょっと今できないから」「帰る時（降園前の時間）にしようね」と伝えた。すると、子どもたちは時間を守って保育室に戻ってきて、プリキュアの遊びもすることができた。Yはこの場面を振り返り、「結構帰つ

てきましたね」と語った。子どもたちが自分で考えて行動するようになってきたことをYがうれしく思ったことが窺えた。

Yは「なんで今日レストランなんだろう」とも振り返り、「寿司と野菜いためをモエちゃんが作って」「『ここはレストランよ』って言ったのだと思い出した。そして、それは「全然想定外」のことだったと語った。また、「女の子少ないので、なんとなくお互いを待ちあうような」「感じにはなっていて」とも語っており、他の子どもたちの中にもマナミを待つ気持ちがあると感じたことも、Yが保育室にしようとした判断の根拠の一つになったことが窺えた。

3-2-7 「久しぶりにままごとコーナーから始まりやなあ」（表2⑦）

Yは「久しぶりにままごとコーナーから始まり」だったと語る中で、モエがままごとコーナーで小さな俵型のスチロールを見つけ、これは何かとYに尋ねたことを思い出した。この素材は「お寿司」を作る際に使うことが多く、Yも保育室に保管していたのだが、ままごとコーナーに出してはいなかった。A幼稚園では子どもたちが保育室を自由に行き来しながら遊ぶため、他の保育室から持ち込まれたと思われる。

Yが「想定外」の「レストラン」の遊びについて語る中で、その具体的な「きっかけ」に行きつき、納得したことがわかる。

3-2-8 「反省しきりです」（表2⑧）

この日の保育実践を振り返り、Yはお金の作り方について「全体で言ったことっていうのは、そんなにたいて聞いている訳」ではなく、「こっちの安心感」みたいなためでもあるが、「聞いたことでわかる人もいますからねえ」とも語った。その場の状況の中で、他の判断もあり得たのではないかとYが考えていることがわかる。Yは「反省しきりですけど」と語った。

3-2-9 「欲張りな私」の「いけないところが全部出たと思って」（表2⑨）

Yは「欲張りな私」の「いけないところが全部出たと思って」とも語った。子どもたちと園生活を重ねていくと、一人一人の子どもを理解できるようになり、その姿もより具体的に予想できるようになる。また、様々な保育者としての思いも生まれ、より明確にもなる。Yはこの日、その場の状況と保育者としての自分の思い、子どもたちの思いをもとに、今が「チャンス」だと判断してお財布やお金を作ることを提案したり、池に行くタイミングを判断した様子を詳細に語った。Yのこのような判断のしかたは4月26日と同様である。しかし、この日は「想定外」の状況や子どもの姿もあり、その状況の中で自分が判断し、選んだ保育行為の結果が「中途半端」なものになってしまったとYはとらえていた。そのため、Yは「欲張りな私」の「いけないところが全部出た」と語ったと考えられる。

また、Yは「今がチャンスだしなーと思いながら。思いながらやりながら」とも語っていた。Yが一人一人の子どもの遊びに常に気を配り、それぞれの遊びに保育者としての思いをもちながら、その中でも自分が今一番どこにかかわる必要があるかをその場その場で判断して具体的な保育行為を選んでいることが窺えた。

このようにその日の保育実践について詳細に語るができるYが、「忘れました」と言うこともあった。しかし、その後も語り続ける中で、自分が選んだ保育行為の判断の根拠について思い出して行った（表2③⑤⑥⑦下線部）。

3-3 保育の中で子どもたちをどのように把握しているのか

6月7日には、自身の保育実践について詳細に語るYに対して、子どもたちの姿をどのように把握しているのかについてNが質問した。そこでのYの語りからの抜粋をまとめたものが表3である。

3-3-1 Nの質問をもとにしたYの語り（表3）

一人一人の子どもが自分の好きな遊びを見つけて取り組むことを大切にする保育の中で、Yは「ぜんぶはわからない」子どもの動きをどのように見て（表3①）「点の部分」をつないで把握しようとしているかについて語った（表3②）

また、子どもは「常に動いて」いるが、自分のクラスの子どものことは「一体どこでどうしてるのかっていうのは常に思って」と語り、「なんかこんなふうに言ったっていうのから、こうかも知れない

な、ああかも知れないなと思いつつながら」「でも、きつこう思っただよなっとかいう、感じですよええ」（表3③）と語った。Yがその場で直接かかわることができない子どもの姿も把握しようと努めるだけでなく、把握した子どもの姿から様々な推測をしていることがわかる。このように推測したことも、Yの保育行為の判断の根拠の一つになっていると考えられる。

3-3-2 保育実践についてのYの語りとの関連

このことは、4月26日の保育実践についてのYの語りの中でも確認することができた。この日は広い園庭に出て遊ぶ子どもたちについて語っていたこともあり、「一緒に出て行ったのは見てたから、その辺でアメーボとったりしながら多分アスレチックの方へ行っただろうとは思いますが」「いろんなことをしてるんだけど」「跳んでみたり跳ねてみたり渡ってみたりっていうことかなっと思って」（表1③二重下線部）、「ケン君とヒロム君がそこにいるのが見えて」「自分たちであそこまで行っただよなっと思って思ったのがおとくだっただよなっと思って」（表1④二重下線部）等、自分が把握した子どもの姿とそこから推測したことを具体的に語っていた。

表3 Yの語りからの抜粋：子どもたちをどのように把握しているのか

①「ぜんぶはわかんない」	・「ぜんぶはわかんないです。だけでも、あ、あの人とあの人をあそこでこう、こう行っただよなっから、昨日きつこうんなことしてるに違いないみたいなのとか。ヒュッと通って走ったところから」「あ、ここを今通っただよなっから、あそこでこうしてこうした」
②「点の部分を、やっぱりこう、つないでいって感じ」	・「やっぱり点しか見えなかつたりとか」「点の部分を、やっぱりこう、つないでいって感じですよええ」
③「一体どこでどうしてるのかっていうのは常に思っているから」	・「でも、あ、なんか聞こえた。声がなんかこんなふうに行ったっていうのから、こうかも知れないな、ああかも知れないなと思いつつながら」「やっぱり、自分のクラスの人っていうのは、一体どこでどうしてるのかっていうのは常に思っているから」 ・「子どもって常に動いて、動いてるから」「でも、きつこう思っただよなっとかいう、感じですよええ」

3-4 Yの語りに表れた保育者の専門性

前述のように、戸田（1992）は「保育学とは、子どもを『保育』しようとする者が、何をどうすべきかを選択し、決定する、その判断の根拠を検討する学問」であると定義しているが、津守（2002）は「保育者は常に子どもの声に耳を傾け」ながらも、「自らの主体性をもって判断し、状況の中で決断して行為せねばならない」⁵⁾とも指摘している。Yも一人一人の子どもの声に耳を傾けながらも、「想定外」（表2⑥）の状況も含め、そこでの状況の中で保育者としての思いをもとにその場その場で主体的に判断し、どのような保育行為を選んだのかについて詳細に語っていた。

前述のように、『幼稚園教育要領解説』（2008）において、保育者の専門性は「幼児一人一人の行動と内面を理解し、心の動きに沿って保育を展開することによって心身の発達を促すよう援助することにある」と記されているが、Yはこのことを子どもたちと「共に行動しながら考え」実践していることが、Yの語りをもとに確認することができた。そして、その日の保育実践について子どもたちの姿を「自らのかかわり方との関係で振り返」っていることも確認することができた。今回Yがその日の保育実践についてNに語ったことは、「幼児が帰った後に一日の生活や行動を振り返」ることの一助にもなったと考えられる。

また、4月26日に比べて6月7日の方が、子どもたちの中に生まれた様々な思いを理解し、その思いにこたえようとしたことについてYはより多く語った。「～と思って」「～したい」等、自身の保育者としての様々な思いについてもより多く語った。「指導の視点」がより明確になり、「さらに充実した教育活動を展開」しようとしていたことがわかる。

A幼稚園では、子どもが自分の好きな遊びを見つけて取り組むことを大切に保育を展開している。子どもたち全員を常に把握することは不可能である。その中で、Yは「共に行動しながら考え」ることができない場合にも、子どもたちの姿を把握しようと努め、「こうかも知れないな、ああかも知れないな」と推測しながら、点でしか見えない子どもの姿をつないで理解しようとしていると語った（表3）。また、そのことを保育実践について振り返る中でも具体的に語った（表1③④）

このような営みを「日々繰り返すことにより」、Yが保育者としての「専門性を高め、自らの能力を向上させて」いることがYの語りから確認することができた。

また、このように詳細に語るができるYでも、忘れてしまったと語り、その後また語り続ける中で思

い出したと語ったこともあった(表2③⑤⑥⑦)。そのままにしておくことと忘れ去られてしまうこともあり得る具体的な「保育の文脈」が、Nに語る中でYの中に甦ってきた様子が窺えた。保育者が自身の保育実践について振り返り語るこの意味がここにも見出せた。

おわりに

本稿では、経験豊かな保育者が自身の保育実践についてどのように語り、そこにはどのような保育行為の判断の根拠が埋め込まれているのかを分析することを試みた。このような試みを続けることは、大場(2007)の指摘する「専門性の意味づけ」と「実践知の蓄積」に寄与する方法の一つになると考える。

今後は、一年間の園生活の中でYの語りにどのような変容があるのかを分析したい。また、保育者が保育実践直後に語る内容と、その後にさらに意識化して文字化する記録の内容との関連性についても分析したい。そして、得られた知見を若い保育者や学生を育てることにどのように生かすかについても検討したいと考えている。

引用文献

- 1) 文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 2008 pp. 44-45
- 2) 大場幸夫 子どもの傍らに在ることの意味—保育臨床論考— 萌文書林 2007 p. 35
- 3) 日本保育学会第45回大会企画シンポジウム「保育学を求めて—若手研究者のアイデンティティ・クライシス—」における提案 保育研究 第13巻第2号 建帛社 1992 p. 37
- 4) 吉村香 保育者が語る子ども理解と援助—聴き手の視座から— 保育の実践と研究 第12巻第2号 2007 pp. 59-69
- 5) 津守真 保育の知を求めて 教育学研究 第69巻第3号 2002 p. 44

参考文献

- ・ドナルド・ショーン 佐藤学・秋田喜代美 訳 専門家の知恵—反省的実践家は行為しながら考える— ゆみる出版 2001
- ・金井壽宏・楠見孝編 実践知—エキスパートの知性— 有斐閣 2012
- ・小川博久 「保育」の専門性 保育学研究 第49巻第1号 2011 pp. 100-110
- ・吉村香 保育者の語りに表れる省察の質 保育学研究 第50巻第2号 2012 pp. 64-74

平成 25 年度山口大学教育学部附属教育実践総合センター年報

1. 山口大学教育学部附属教育実践総合センター

所在地： [住所] 〒753-8513 山口市大字吉田 1677-1
[TEL&FAX] 083-933-5310
[URL] <http://www.center.edu.yamaguchi-u.ac.jp>

構成員：(平成 26 年 1 月 31 日現在)

センター長	教授	吉川幸男	yoshcowr@yamaguchi-u.ac.jp
専任教員	教授	木谷秀勝	kiya@yamaguchi-u.ac.jp
	教授	霜川正幸	m-shimo@yamaguchi-u.ac.jp
	准教授	鷹岡 亮	ryo@yamaguchi-u.ac.jp
	准教授	久保田 尚	k-tact@yamaguchi-u.ac.jp
	准教授	松本清治	matsusei@yamaguchi-u.ac.jp
アドバイザー	客員教授	前田昌平	maeda3@yamaguchi-u.ac.jp
	客員准教授	佐伯里英子	rsaeki@yamaguchi-u.ac.jp
担当事務補佐員		久保田尚子	jiissen-c@yamaguchi-u.ac.jp

2. センターの学内での年間活動状況

a) センター主催・共催の研究会・研修会

- ・「やまぐち総合教育支援センター山口県長期研修教員連携プロジェクト」連絡会議, オリエンテーション, 研究課題発表会, 研究支援・助言, 授業へのゲストティーチャ:4/24, 2/7 他、参加者(やまぐち総合教育支援センター長期研修教員・部長・指導主事, 県教委指導主事, 学生, 学部教員) [実践総合センター全教員]
- ・「教育実践総合センター第 5 回楽しい学びづくりセミナー」2/9「楽しい学びづくりをめざして」(後援: 山口県教委, 山口市教委) (パネル討論) 参加者 59 名 (地域学校教員, 学生, 附属学校教員, 学部教員) [前田・吉川センター長・霜川・松本・鷹岡]
- ・「電子黒板説明会」(説明・質疑応答・実習) 8/6 参加者 8 名 (説明者企業 2 名, 学部教職員・附属学校教職員, 学生) [鷹岡・久保田・松本]

b) 附属学校園との共同プロジェクト/研究会/研修会

- ・教育学部と附属学校の共同研究として、学部教員と附属学校教員が任意にチームを組んで研究を実施。成果報告を「学部・附属教育実践研究紀要」第 13 号 (平成 26 年 3 月刊行) で発表。
- ・「第 2 回学部・附属共同研究発表会」研究発表 (実践報告、研究協議等) 2/28 参加者 (学部・附属学校教員, 学生等)
- ・附属学校研究大会遠隔配信事業 (附属山口小) テレビ会議システムを活用して研究大会を中継 11/29 遠隔参加者 4 名 (学部教職員, 学生) [鷹岡]
- ・現職教員キャリアアップ支援事業 (附属山口小との共催) 冬期公開授業研究会の実施 (テレビ会議システムを活用した中継含む) 1/30 遠隔参加者 4 名 2/13 遠隔参加者 2 名 (学部教職員, 学生) [鷹岡]

c) センター専任教員の学部・大学院教育への参与状況

- ・木谷：人格心理学 (前期) 教育学部 26 名
臨床心理学査定演習 I (前期) 大学院 9 名
臨床心理基礎実習 (前期～リレー講義 (15 回) のうち 3 回) 大学院 10 名
カウンセリング演習 (後期) 教育学部 12 名
臨床心理面接特論 I (後期) 大学院 9 名
臨床心理実習 (後期～リレー講義 (15 回) のうち 3 回) 大学院 10 名
共通教育：人間の発達と育成 2：(前期) 87 名 (後期) 67 名

教員免許更新講習, 7/21 参加者 50 名, 7/28 参加者 120 名, 12/26 参加者 50 名

- ・霜川：人間の発達と育成（教育学）（前期）50 名（後期）100 名
教職協働実践 II 学部 2 年 35 名
基礎セミナー 学部 1 年 31 名
教職概論 学部 1 年 120 名×2 回
地域教育実践演習 学部 3 年 30 名
学校教育特講 学部 3・4 年 80 名
学校教育総合研究 大学院 30 名
学校教育実践研究 大学院 3 名
教育学部教育実習事前・事後指導 2 年 200 名
他学部教育実習事前・事後指導 3・4 年 100 名
高等学校出前講座授業（3 校） 計 200 名
教員免許更新制講習（必修領域） 200 名×1 回
- ・鷹岡：教育工学 I（前期）学部 19 名
教育メディア論（前期）学部 35 名
教育メディア論（前期・集中・工）学部 3 名
教科教育法算数（前期）学部 154 名
基礎セミナー（前期・分担 3 回）31 名
情報リテラシー・情報セキュリティ・モラル（前期）学部 31 名
情報科教育特論（前期）大学院 4 名
数学教育特論演習 I（前期）大学院 4 名
教職協働実践 I（後期・3 名共同）共通教育 32 名
教育工学 II・教育情報システム論（後期）学部 20 名
情報科教育法 I（後期）学部 24 名
学習メディア活用演習（後期）学部 15 名
総合学習開発演習（後期・3 名共同）学部 3 名
課題研究（全期）大学院 2 名
数理情報特論 II（後期）大学院 4 名
卒業研究 学部 4 名
- ・久保田：教職概論 学部 1 年 120 名×2 回
基礎セミナー 学部 1 年 31 名
協働実践基礎 学部 1 年 31 名
教職協働実践 II 学部 2 年 33 名
地域教育実践演習 学部 3 年 30 名
教材・指導法開発演習 学部 3 年 30 名
教科教育法音楽 学部 3 年 71 名
初等科生活 学部 3 年 36 名
子ども理解演習 学部 1 年 31 名
学習コミュニケーション演習 学部 1 年 31 名
教職協働実践 I 学部 1 年 31 名
初等科音楽（合奏のみ）学部 2 年 91 名
教育実習部員 基本実習・委託実習運営
参加実習指導 学部 2 年 40 名
基本実習事前事後指導・評価 学部 3 年 250 名

- ・松本：教職概論 学部 1年 120名×2回
 - 基礎セミナー 学部 1年 31名
 - 協働実践基礎 学部 1年 31名
 - 地域教育実践演習 学部 3年 30名
 - 教材・指導法開発演習 学部 3年 31名
 - 学校課題理解演習 学部 3年 31名
 - 子ども理解演習 学部 1年 31名
 - 学習コミュニケーション演習 学部 1年 31名
 - 教職協働実践 I 学部 1年 31名
 - 教育実習部員 基本実習・委託実習運営
 - 参加実習指導 学部 2年 40名
 - 基本実習事前事後指導・評価 学部 3年 250名

d) その他

- ・山口大学大学院教育学研究科附属臨床心理センター心理相談員 [木谷]
- ・医学部附属病院脳神経外科 (担当:心理検査) [木谷]
- ・山口大学コミュニケーションサポートルーム室長 [木谷]
- ・山口大学大学教育センター主催 FD 研修会講師 (工学部) [木谷]
- ・ちゃぶ台方式による協働型教職研修事業 (ちゃぶ台研修部) [霜川・鷹岡]
 - (各プログラムでの活動状況)
 - ・フレンドシップ (生雲小学校: 通年) [霜川]
 - ・学力向上等支援員 (平川・大殿・鴻南中学校、西京高校: 通年) [霜川・松本・佐伯]
 - ・ちゃぶ台林間学校 (国立山口徳地青少年自然の家共催): 8/25-26, 11/23-24, 3/26-28 (予定)、参加者 (小学生, 高校生, 大学生, 保護者, 学校教員, 大学・附属学校園教員) [鷹岡・霜川・久保田・佐伯]
 - ・ちゃぶ台次世代コーホート (学生と若年教員による協働型教職研修: 通年) [霜川・鷹岡・久保田・松本・佐伯・前田]
 - ・体育実技ボランティア (県教委学校安全体育課との連携事業) [松本]
 - ・保育ボランティア (平川幼稚園等) [久保田]
 - ・学校チューター (秋穂小学校) [久保田]
 - ・ちゃぶ台研修会 (随時) [霜川・鷹岡・久保田・松本・前田・佐伯]
 - ・教職概論支援 [霜川・鷹岡・久保田・松本]
 - ・ちゃぶ台教職相談室 (通年) [前田・佐伯]
- ・遠隔地高校生学力向上プログラム (島根県教育委員会連携事業、津和野高等学校: 5~3月) [霜川]
- ・小学生野外活動体験プログラム (山口県PTA連合会連携事業、徳地青少年自然の家: 8月) [霜川]
- ・小学校絵本等読み聞かせ推進プログラム (平川小・バーバママの会連携事業: 9~3月) [霜川]
- ・地域健全育成協働プログラム (平川健育協連携事業: 7月) [霜川・久保田・松本]
- ・中高生等教育学部、ちゃぶ台ルーム訪問対応 [霜川・鷹岡・久保田・松本・佐伯]

3. センターの対外的な教育・研究活動

a) 都道府県/市町村/公立学校との協同事業による研究会・研修会

- ・木谷：下松市特別支援教育研修会講師, 2/16
- ・霜川：①幼児児童生徒、保護者を対象とした講演会等における講演
 - ・子育て講演会：山口市大内光輪保育園, 6/6 参加者 60人, 12/7 参加者 120人
防府市佐波幼稚園, 7/6 参加者 80人
山口市佐山保育園, 7/13 参加者 100人
山口市吉敷保育園, 11/13 参加者 120人
 - ・人権教育講演会：宇部市立小野小中学校, 6/16 参加者 100人

- 下関市立栗野小学校, 11/7 参加者 50 人
- 周南市立勝間小学校, 11/19 参加者 80 人
- 山口市立阿知須小学校, 1/16 参加者 100 人
- 美祢市立東厚小学校, 2/21 参加者 60 人
- ・保育・教育講演会：山口市立瀨上中学校, 7/5 参加者 200 人
- 下関市立夢が丘中学校, 10/28 参加者 10 人
- 周南市立岐陽中学校, 11/30 参加者 130 人
- ・PTA 教育講演会：美祢市立大嶺小学校, 6/9 参加者 80 人
- 下関市立彦島中学校, 6/23 参加者 120 人
- 山口市立德佐小学校, 11/28 参加者 70 人
- ・家庭教育講演会：山陽小野田市立小野田小学校, 6/28 参加者 180 人
- 山口市立宮野中学校, 7/5 参加者 120 人

②学校教職員を対象とした講演会、研修会等における講演、講義

【講演】

- ・山口市佐山保育園保育研修会, 7/13, 参加者 20 人
- ・岩国市、和木町教職員研修会, 8/6 参加者 60 人
- ・美祢市中学校教職員研修会, 8/8 参加者 30 人
- ・柳井市学校教職員人権教育研修会, 8/9 参加者 160 人
- ・山口市立湯田小・中学校教員研修会, 8/27 参加者 60 人
- ・下関市学校教職員人権教育研修会, 8/28 参加者 160 人
- ・山口市立白石小・中学校研修会, 8/29 参加者 40 人
- ・岩国市立麻里布小・中学校コミュニティー・スクール研修会, 8/30 参加者 70 人
- ・光市コミュニティー協議会研修会, 11/12 参加者 40 人
- ・周防大島町学校評価研修会, 11/26 参加者 20 人, 12/4 参加者 20 人

【講話】

- ・周南市周陽公民館研修会, 6/13 参加者 15 人

【講義演習】

- ・光市立浅江中学校校内研修会, 7/9 参加者 30 人
- ・山口市立湯田小・湯田中合同研修会, 8/16 参加者 80 人

③行政職員を対象とした講演会、研修会等における講演、指導助言

【講義演習】

- ・山口県社会教育主事等研修講座, 6/25 参加者 80 人
- ・光市事務職員研修会, 10/4 参加者 30 人
- ・周南管区社会教育主事研修会, 10/19 参加者 40 人

④一般県民等を対象とした講演会、研修会等における講演

【講演】

- ・光市コミュニティー協議会研修会, 8/26 参加者 50 人
- ・光市教育委員会学校規模適正化配置研修会, 9/17 参加者 20 人
- ・阿武町人権教育講演会, 10/18 参加者 80 人
- ・光市教育委員会学校規模適正化配置研修会, 10/24 参加者 20 人
- ・山口県アドバイザー養成講座, 11/10 参加者 100 人
- ・周南市鹿野地区教育講演会, 11/16 参加者 30 人
- ・長門市民人権教育推進大会, 12/1 参加者 180 人
- ・防府市ボランティア養成講座, 2/22 参加者 40 人
- ・岩国市コミュニティー協議会研修会, 3/5 参加者 50 人

- ・鷹岡：柳井南小学校公開授業・研究協議会 指導助言, 7/3, 10/18
- 豊浦総合支援学校 ICT 研修会 指導助言, 11/27

- ・久保田：①学校教職員を対象とした講演会、研修会等における講演・指導助言
 - ・岩国市・和木町小学校研究会 音楽部会研修会, 10/16 参加者 50 名
- ②児童・生徒への音楽指導
 - ・光市立室積小学校合奏団指導, 10/20
 - ・山口県立防府高等学校弦楽部指導, 7/20
 - ・山口県立山口高等学校管弦楽部指導, 10/15, 10/26, 11/1
 - ・山口県立小野田高等学校吹奏楽部指導, 8/21, 2/11
 - ・山口県立山口中央高等学校管弦楽部指導, 5/8, 6/18, 7/15, 9/17, 12/21
- ③地区音楽会での指導講話
 - ・周南市小学校音楽会, 10/30
 - ・美祢市小学校音楽祭, 11/8

- ・松本：①学校教職員を対象とした講演会、研修会等における講演・指導助言
 - ・下関市立安岡小・中学校合同研修会, 8/19 参加者 50 名
 - ・下関市立安岡中学校校内研修指導助言, 11/15 参加者 30 名
 - ・山口市立白石中学校校内研修指導助言, 1/29 参加者 30 名
- ②児童・生徒への指導
 - ・下関中等教育学校キャリア教育出前授業, 7/9
 - ・広島県立広高等学校キャリア教育出前授業, 10/17
 - ・島根県立益田高等学校キャリア教育出前授業, 11/14

- b) 教育臨床部門専任教員による公立学校等へのカウンセリング/コンサルテーション活動状況
 - ・木谷：学校訪問（コンサルテーションのため）
 - ・山口大学教育学部附属幼稚園・小学校（山口校・光校）・中学校（山口校・光校）・特別支援学校（教育相談部）
 - ・被災地支援に伴うスクールカウンセラー派遣事業（気仙沼市立九条小学校）
6/17～21、11/18～22 の計 2 回
 - ・山口県内の公立小・中学校及び高校

小 学 校		
山口市立白石小学校 山口市立小郡南小学校 山陽小野田市立津布田小学校 山陽小野田市立須恵小学校 山陽小野田市立埴生小学校 山陽小野田市立本山小学校	光市立浅江小学校 光市立三井小学校 光市立室積小学校 光市立島田小学校 防府市立小野小学校 周防大島町立久賀小学校	岩国市立東小学校 萩市立白水小学校 萩市立椿東小学校 萩市立明倫小学校
中 学 校		
山陽小野田市立埴生中学校 防府市立小野中学校 美祢市立伊佐中学校 美祢市立豊田前中学校	光市立室積中学校 光市立大和中学校 光市立浅江中学校 光市立光井中学校	岩国市立東中学校 萩市立萩西中学校

高等学校	特別支援学校
山口県立田布施農工高等学校 聖光高等学校	山口県立宇部総合支援学校 山口県立田布施総合支援学校 山口県立豊浦総合支援学校 山口県立下関総合支援学校 山口県立山口南総合支援学校
療育機関	保育園
子ども発達支援センター「愛」	西佐波保育園

- ・福岡市及び福岡県（西南学院舞鶴幼稚園、福岡市立中央特別支援学校、福岡県立福岡高等養護学校、福岡県立北九州高等養護学校、九産大九州高校、大宰府市立国分小学校、福岡障害者職業能力開発校）
- ・益田市（益田東中学校、益田中学校、益田市立吉田小学校）
- ・心理教育相談室における心理面接 約 700 回

c) その他

- ・木谷：日本心理臨床学会社員（理事）
日本描画テスト・描画療法学会常任理事
山口県小児科医会「心の臨床部会」コメンテーター
山口家庭裁判所・福岡家庭裁判所小倉支部調査官自庁研講師
下関市「イルカふれあい体験」チーフセラピスト
大分大学大学院・九州産業大学大学院・福岡大学大学院非常勤講師
NPO 法人アスペ・エルデの会主催日間賀島合宿（高機能 ASD 児者の社会適応のための合宿プログラム）「自己理解」プログラム指導者, 8/17～20
名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター「発達障害児のライフサイクル支援セミナー」講師, 8/23
福岡市知的障害特別支援学校保護者連合会研修講演会講師, 10/25
恵那市子育て講演会講師, 10/26
岐阜県小児科医会特別講演講師, 10/27
福岡市立児童相談所研修講師, 11/14
長門市発達障害児親の会ブルースター講演会講師, 11/16
NPO 法人シンフォニー・ネット講演, 11/17・3/9
熊本市総合福祉相談センター研修会講師, 12/2
「発達障害者支援セミナー in みやぎ」講演講師, 12/6
下関市子ども発達センター保護者・職員研修講師, 1/21
日本小児科医会「子どものこころ」研修会講師, 2/2
福岡女学院大学院臨床心理センター研修会講師, 2/15
福岡市自閉症児者親の会講演, 2/27
山口保護観察所研修講師, 3/13
- ・霜川：山口県学校評価（第三者評価）委員会（委員）
山口県学校評価研究委員会（アドバイザー）
周南市次世代育成支援対策審議会（会長）
県内 6 市コミュニティースクール運営協議会（アドバイザー）
周南市公民館運営審議会（委員）
学校評議員, 学校関係者評価委員, 学校運営協議会委員（10 校）
家庭教育相談, 青少年相談（県内） 相談対応 20 件

- ・鷹岡：ISO/IEC SC36 国内委員会委員, SC36WG2 Project Editor
 ICCE2014 LOC Registration, Accommodation, Transportation Co-Chair
 IADIS International Conference e-Society 2014 Program Committee
 教育システム情報学会 情報教育委員会幹事, 英文編集委員会幹事, 研究会委員会委員
 教育システム情報学会 教育システム標準化委員会委員, 中国支部副支部長
 日本情報科教育学会評議員, 広報委員会委員
 CEC モバイル端末を活用した学習環境検討委員会委員
- ・久保田：①音楽コンクール審査員
 山口県学生音楽コンクール 弦楽部門, 7/31
 ②幼稚園児音楽指導
 光市虹ヶ丘幼児学園, 1/18, 2/6
 ③山口県巡回芸術劇場（管弦楽公演）参加
 山口県立下関南総合支援学校・山口県立下関工業高等学校, 6/17
 下松市立下松小学校・山口市立德地中学校, 7/9

4. センターの外部資金導入状況

a) センター専任教員が研究代表の科研費受給状況

助成金名	研究題目	本年度金額 (万円)	研究期間	研究代表者
科学研究費基盤（C）	高機能自閉症スペクトラム障害の自己理解をめぐる葛藤と対処スキルに関する基礎的研究	50	平成 25 年 ～27 年	木谷 秀勝
科学研究費基盤（C）	協調的学習支援機能を有したゲーム型協調学習支援環境に関する研究	130	平成 25 年 ～27 年	鷹岡 亮

b) センター専任教員あるいはセンターとして受給した学内科研

助成金名	研究題目	本年度金額 (万円)	研究期間	研究代表者
平成25年度山口大学 教育学部学部長裁量経費	学部・附属共同研究プロジェクト研究	300	1年間	吉川 幸男
平成25年度山口大学 教育学部学部長裁量経費	「つながりを感じて共育を目指す」 教員養成機能充実プロジェクト	180	1年間	鷹岡 亮

5. 将来構想

今日、資質能力の高い教員の養成が求められる中で、教育実践総合センターもそれに応じた体制を整備し、教員養成・教員研修の研究と実施の中核となることが求められる。特に山口大学の場合、教育学部以外の学部学生の教職関係科目の履修を教育学部が担ってきた経緯から、全学の教職課程に応じた役割機能を視野に、新たな体制づくりが検討されている。方向としては、以下のような点が焦点になる。

- ①地域の新しい学びのスタイルを研究・開発し、それを元にした教員養成・教員研修の関連事業を展開する。そしてそれを最大限発揮できる体制を構築する。
- ②教育学部の業務部・委員会組織とより直接的な連携をはかり、地域の教育課題等を学部の教員養成教育により反映できる体制を構築する。
- ③附属学校園と学部・地域をつなぐ機能を強化し、相互の連携による一体的な研究・教育が展開できる体制を構築する。

このような体制改革を通して、学部、附属学校園、地域の学校、地域の教育委員会と有機的な連携に立った研究・教育を推進する。